平成 16 年 10 月 4 日
国土交通省金沢河川国道事務所

「第 2 回 手取川水系流域委員会」の審議結果（議事速報）について

去る、平成 16 年 9 月 22 日（水）に、金沢市内で『第 2 回手取川水系流域委員会』が開催されました。会議では、事務局から『手取川の現状と課題』について報告があった後、各委員による審議が行われました。主な意見は次のとおりです。

出席委員：以下 19 名（6 名欠席、敬称略・専門分野別五十音順） 印は会長

氏名	専門分野	所属
玉井 信行	河川工学	金沢大学工学部 教授
辻本 哲郎	河川工学	名古屋大学大学院 教授
佐野 修	自然環境(魚介類)	いしかわ動物園 飼育第二課長
富樫 一次	自然環境(昆虫類)	石川県ふれあい昆虫館 館長
中村 正博	自然環境(鳥 類)	日本野鳥の会石川県支部 事務局長
古池 博	自然環境(植 物)	石川県地域植物研究会 会長
中川 耕二	地下水・地質	北陸地盤工学研究会 前会長
藤 則雄	地下水・地質	金沢学院大学美術文化学部 教授
鹿島 博史	エネルギー	北陸電力(株)石川支店 技術部長
宮崎 光二	内水面漁業	石川県内水面漁場管理委員会 委員長
池本 良子	水 質	金沢大学工学部 助教授
車 幸治	地域社会	手取川流域開発期成同盟会会長、鶴来町長
永井 隆一	地域社会	石川県砂防協会会長、白峰村長
山崎 正夫	地域社会	手取川流域開発期成同盟会副会長、尾口村長
小堀 幸穂	地域経済	鶴来商工会 副会長
長谷川孝徳	歴史・文化・文芸・教育	石川県立歴史博物館 学芸専門員
平野 俊也	歴史・文化・文芸・教育	前水辺の楽校推進協議会委員長、寺井町立図書館長
三田 薫子	歴史・文化・文芸・教育	作 家
米田 満	歴史・文化・文芸・教育	白山地域自然保護懇話会 座長

欠席者

中村 浩二	自然環境(生態学)	金沢大学自然計測応用研究センター 教授
野崎 英吉	自然環境(哺乳類)	石川県白山自然保護センター 主任研究員
村島 和男	農業土木	石川県農業短期大学 教授
吉田 武雄	農業水利	石川県土地改良事業団体連合会 副会長
西田 耕豊	地域社会	石川県治水協会会長、川北町長
高澤 基	報 道	北國新聞社 専務取締役

議事速報

【治水について】

手取川は日本を代表する急流河川であるということを再認識した。これからの河川整備は急流河川の特徴を踏まえた整備を実施して欲しい。

今年、新潟や福井では短時間に記録的な集中豪雨が発生し、大きな被害が発生している。あのような豪雨を考慮して計画されているのか、また、手取川はどれくらいの降雨があると危険になるのか説明して欲しい。

既往洪水での手取川ダムや大日川ダムの効果と治水計画上の考え方を説明して欲しい。H9年 $Q_p=4,080\text{m}^3/\text{s}$ は小さいのではないかと、精査が必要である。

流量と雨量データ、本支川の考え方、ダム計画などを含めて、手取川の治水計画を示す必要がある。

雨量の平年値は30年平均で示すべきである。

河口閉塞の実態や対策について示す必要がある。

新潟・福井出水でも、川の中の植生が悪影響を及ぼしていた可能性がある。手取川も川の中の植生が徐々に繁茂しつつあるが、生態系への配慮も必要である。川の中の植生が繁茂した場合に治水上、どこにどの様な影響があるのか説明して欲しい。

霞堤といった治水施設や、洪水時の情報の内容や伝達方法について、もっと一般住民に分かり易く説明をすべきだ。ダム放流のサイレンは何を伝えたいのかが不明確である。熊田川合流点の改修に際しては、歴史的価値等を踏まえた整備を実施して欲しい。

河床低下による問題発生と天井川解消は相反する課題である。流域の土砂管理をどうしていくのかが重要である。

【環境について】

今年の手取川の水は濁りが引かない。生態系や漁業等の利用面でも影響が出ている。原因を究明し、対策を実施して欲しい。

上流から土砂を流すことは、生態系にとっても良い事である。良好な土砂環境を作っ

て欲しい。川の中の樹木を伐採するときは、生物への配慮してほしい。また、河口のコアジサシの繁殖地は自然状態の繁殖地として非常に貴重な場所である。

地下水質について、もっと広域的、経年的な評価が必要である。評価指標については、DOではなく、塩素・窒素濃度などを用いて再検討すべきである。

【利用について】

手取川ダムの水利用をもっと詳細に説明してほしい。

流域内の人口や土地の利用状況などについて、もっと詳細なデータが欲しい。そういうデータがないと現状を踏まえた検討ができない。

金沢市は地下水の低下が問題になっている。手取川扇状地の先端部の地下水位の動向も調べた方がよい。

今の子供たちは、川での遊び方を知らない。川への理解を深める、分かり易い教育・啓蒙が必要である。

当たり前の日本の道徳、モラルが低下してきている。

手取川の湯水は、H6年よりH4年の方が深刻だったのではないか。

【全 般】

河川整備計画を策定する範囲での課題はある程度示されたが、流域や更に広域的に対応すべき課題について示す必要がある。

相反する課題がいくつか示された。それらについて整理し、どこに折り合いをつけるか議論が必要である。

以 上

お問合せ先

国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所

調査第一課長 二 俣（ふたまた）

TEL 076-264-8800(代) (内線)351